

〈授業実践報告〉

新型コロナウイルス感染症流行下での保育実習Ⅰ（保育所）

—学生への実習後のアンケートをもとに—

横井一之*・横井良憲**

はじめに

令和2年度の教育学部保育専攻2年生の保育実習Ⅰ（保育所）が実施された。今回の実習は、新型コロナウイルス感染症流行下で実施されたのが特徴である。その実習について学生がどのようにとらえているかアンケートを行って探った。アンケートの前半「a. 保育実習指導から実際の実習について」は毎年行っているもので、設問設定、結果集計および分析を横井一之が担当した。後半「b. 新型コロナウイルス感染症について」は今回初めて行ったアンケートで、横井良憲が担当した。

1. 保育実習（保育所）について

(1) 令和2年度保育実習（保育所）の位置付け

保育士養成課程ではa. 保育実習Ⅰ（保育所・施設）、b. 保育実習Ⅱ（保育所）または保育実習Ⅲ（施設）が課されている。

今回取り上げたのは、保育実習Ⅰ（保育所）2週間である。

(2) 実習期間

令和3（2021）年2月15日（月）～2月27日（土）

利用者の都合で土曜日に開園されない保育所や認定こども園（以下保育所等と表記）については、3月1日（月）も実施した。

(3) 実習実施状況

2年生（一部3年生）62名（学生S1～S62）が延べ63の保育所等C1園～C63園で実習を行った。1名の学生が、2つの保育所で1週間ずつ実習したので人数と実習園数がずれている。

(4) 特記事項

a. 一部の保育所から、実習実施まで2か月となる令和2（2020）年12月に実習ができないと大学に連絡が届いた。

学生S61、S62が実習する予定の保育所より連絡を受け、学生の住所に近いC61園、C62園で実習を行うことになった。ただし、C62園は1週間のみ承諾を得られたので、学生S62の通学途上の名古屋市内のC63園で残り1週間の実習の承諾をいただき実習を実施した。

b. 実習中の病気等

新型コロナウイルス感染症を最も恐れていたが、幸いなことに延べ2週間の実習中の感染学生は皆無で

* 東海学園大学教育学部、** 幼保連携型認定こども園立南保育園副園長

あった。学生は事前 2 週間、実習中 2 週間、事後 1 週間の健康状況報告書を記入し、自分の健康状態に注意を払った。大学では、2020 秋学期は面接授業 6 割、オンライン授業 4 割ぐらいの状況だったが、面接授業では手洗い、咳エチケットの励行、手のアルコール消毒、3 密（密閉・密集・密接）防止を呼びかけた。

例年のことであるが、実習中に発熱した学生が 4 名いた。病院を受診すると、新型コロナウイルス感染症の PCR 検査を実施して下さり、その判定に長いと 2 日かかった。結果はすべて陰性であった。結局、回復と静養のため欠席したので、2 名の学生が 3 日間、2 名の学生が 4 日間実習を補充した。

その他に、実習に入る前の土曜日の夜自転車と自動車に衝突し、経過を見るために 1 日欠席し、その補充を実習後の土曜日に終日実習をした学生が 1 名いた。

2. 保育実習 I（保育所）についてのアンケート

次年度の学生の保育実習 I（保育所）と保育実習指導 I（保育所）の授業改善および新型コロナウイルス感染症流行下での保育園の様子を学生がどのように受け止めたかを調べるために、事前事後指導を受講し、保育実習を行った学生を対象に質問紙法によるアンケートを実施した。

(1) アンケートの実施について

質問紙によるアンケートを以下のように実施した。

a. 実施日等 2021 年 5 月 13 日（木）2 限

2 年生 2 月に実習した学生が 3 年生となり、次の 2 つの授業へ横井一之が出向き、説明をしてアンケートを実施した。

(a) 保育実習指導 I（施設）前半 20 分間 回答者 30 名（うち女子 26 名）

(b) 子育て支援 後半 20 分間 回答者 32 名（うち女子 26 名）

b. 質問内容

(a) 保育実習指導から実際の実習についての設問 54 問（記述式 3 問）

(b) 新型コロナウイルス感染症に関する設問 5 問（選択式、記述式含む）

(2) アンケート結果

a. 保育実習指導から実際の実習についての設問より 54 問

選択式回答について、強い肯定→1 点、肯定→2 点、否定→3 点、強い否定→4 点として、平均点を求めた。そして、中項目ごとにまとめ、中項目の中で肯定が強い設問、つまり平均点の低い設問から昇順に並べた。

(a) 実習意欲

表 1 実習意欲について（10 項目）

番号	回答数	平均値	質問項目
3	61	1.59	実習の目的は理解できている。
1	60	1.70	保育実習事前指導（保育所）の講義は 15 回で十分だと思う。
7	61	1.74	保育者の役目について理解できている。
4	61	1.80	実習に向けて自己課題（自分なりの課題）をもっている。
5	61	1.85	保育所の機能（はたらき）の理解はできている。
2	60	1.87	保育実習（保育所）の全体の流れは理解できている。

10	61	1.89	この授業は積極的に取り組み、その内容は理解できている。
8	61	1.95	実習生としての自分について理解できている。(長所、短所、課題)
6	61	2.10	子どもの理解はできている。
9	61	2.15	実習生としての心構えを理解できている。(実習5か条)

(b) 実習知識

表2 実習知識について (6項目)

番号	回答数	平均値	質問項目
12	61	1.33	健康状況申告書(問診表)の意義について理解できている。
14	61	1.34	毎日の実習記録をいつ、誰に提出するか理解できている。
11	61	1.38	検便の意義について理解できている。
13	61	1.48	保育園の事前訪問について理解できている。
15	61	1.64	実習最終日以後、実習日誌をどのように処理するか理解できている。
51	61	2.38	実習終了後の礼状の書き方は理解している。

(c) 保育内容

表3 保育内容について (21項目)

番号	回答数	平均値	質問項目
33	61	2.36	絵本を上手に読むことができる。
17	61	2.43	保育内容「人間関係」の理解が不足していると思う。
20	61	2.46	保育内容「表現」の理解が不足していると思う。
16	61	2.51	保育内容「健康」の理解が不足していると思う。
18	61	2.51	保育内容「環境」の理解が不足していると思う。
19	61	2.51	保育内容「言葉」の理解が不足していると思う。
34	61	2.51	紙芝居を上手に演じることができる。
28	61	2.54	滑り台の順番を、子どもにどうやって守るように伝えるか不安である。
35	61	2.57	手遊びを上手に演じることができる。
24	61	2.64	子どもがコオロギを捕まえてきたとき、どう指導したらよいか不安である。
29	61	2.70	かけっこをどう指導したらよいか不安である。
36	61	2.85	パネルシアターを上手に演じることができる。
30	61	2.87	子どもに数をどう指導したらよいか不安である。
25	61	2.89	話が上手にできない子がいたとき、どう指導したらよいか不安である。
27	61	2.89	造形や工作の指導が不安である。
31	61	2.97	子どもにどうやって身体のことを指導したらよいか不安である。
23	60	3.08	おもむつの交換が不安である。
26	61	3.11	音楽の指導が不安である。
21	61	3.18	ケンカが起きたとき、どのように対処するか不安である。

32	60	3.20	子どもに上手に素話ができるかどうか不安である。
22	61	3.69	離乳食の作り方が不安である。

(d) 指導案

表4 指導案について（8項目）

番号	回答数	平均値	質問項目
38	60	2.33	1日実習の記録は書くことができる。
37	60	2.42	部分実習の記録は書くことができる。
45	60	2.45	絵本の部分実習の指導案は書くことができる。
46	60	2.60	紙芝居の部分実習の指導案は書くことができる。
49	60	2.72	2歳児の1日実習の指導案は書くことができる。
48	60	2.77	4歳児の1日実習の指導案は書くことができる。
47	60	2.83	2歳児の昼食指導の部分指導案は書くことができる。
50	60	2.85	0歳児の1日実習の指導案は書くことができる。

(e) 発達

表5 発達について（6項目）

番号	回答数	平均値	質問項目
41	61	1.98	1歳児、2歳児のイメージはだいたいある。
39	61	2.00	3歳児、4歳児、5歳児のイメージはだいたいある。
43	61	2.10	0歳児のイメージはだいたいある。
42	61	2.15	1歳児、2歳児がどんなことができるかだいたい理解している。
40	61	2.20	3歳児、4歳児、5歳児がどんなことができるかだいたい理解している。
44	61	2.30	0歳児がどんなことができるかだいたい理解している。

(f) もう少し勉強しておけばよかったと思われる教科名、その内容（3教科）

学生に、上記のように1名につき3教科書いてもらった。結果は表6のとおりである。

表6 もう少し勉強しておけばよかった教科、その内容（3教科）

番号	科目等	件数	その内容
1	言葉	23	絵本、紙芝居の練習、年齢にあった教材
2	音楽	13	手遊び、ピアノ
3	実習記録、指導案	11	指導案の書き方がよく分からなかった
4	発達	9	子どもの気持ち、発達の仕方
5	体育	4	年齢に合った運動
6	造形	2	折り紙

7	遊び	1	遊びの種類
8	全体像	1	子どもの成長に対して保育をざっくりと知りたい
9	環境づくり	1	子どもの楽しめる環境づくり
	(のべ) 計	65	

(g) その他実習にあたり困ったこと (1項目)

表7 その他実習で困ったこと

番号	内容	件数
1	子どもとの関わり方 (援助の仕方、特定の子ども、離れてくれない)	6
2	実習記録をどこまで書くか分からなかった。記録が大変だった。	6
3	指導の保育士との関係 (あたりがきつい、質問のタイミング)	4
4	ケンカの仲裁 (止め方、対処法)	4
5	外国にルーツのある子どもとの関わり方	1
6	発達 (年齢や個人差) に応じた関わり方	1

(h) 実習以外で困ったこと (1項目)

この問いには3名のものが「実習の最終日に物とかをあげて『感謝』を伝えた方がよかったのか。」「実習期間中寝つきが悪かった。」「寒かったり、暑かったり、体温調節が大変だった。」と回答した。

b. 新型コロナウイルス感染症に関する設問 5問 (選択式、記述式含む)

(a) 新型コロナウイルス感染症の流行にあたり、体調管理で気を付けたこと (1項目)

よく注意した→1点、注意した→2点、あまりしなかった→3点、しなかった→4点として、平均点を求めた、そして、中項目ごとにまとめ、中項目の中で肯定が強い設問、つまり平均点の低い設問から昇順に並べた。

表8 実習中に体調管理で気を付けたこと

番号	回答数	平均値	質問項目
551	61	1.38	まめに手洗い
552	61	1.39	まめに手指消毒
553	61	1.46	咳エチケットの徹底
558	61	1.80	十分な睡眠を心がける
554	61	1.92	まめに換気
555	61	2.03	身体的距離の確保
557	61	2.18	食事内容に注意を払う
556	61	2.21	適度な運動を心がける

(b) 新型コロナウイルス接触確認アプリ (COCOA) を知っているか。

ア. よく知っている13名 (21%)、知っている30名 (50%)、あまり知らない10名 (16%)、知らない

8名（13%）であった。

イ. COCOAをスマホにインストールしているのは、16名（26%）であった。

ウ. 実習中に子どもの健康チェックカードを見たか。

（ア）見た学生が、6名（9%）であった。

（イ）見た人の、感想を表9に示す。

表9 健康チェックカードを見た感想

私が見たものは、体温のみの記入だった。
毎日お帳面に体温が書かれていた。
毎朝の検温とその他体調変化について書かれており、保育士が見ただけで子どもの様子が分かるように工夫されていた。
体温を測り、記録していた。
細かく分かれており、その日の体調が分かるようになる。
1日1回体温測定をされていて、徹底していると思った。

（c）健康状況申告書について尋ねた。

ア. 異常があったとき、誰に相談するか。（複数回答可）

家族が28名、CDC職員が7名、実習担当教員25名、ゼミ担任13名、実習先の先生が20名、医療機関5名であった。

イ. 自分が体調管理する上で、もっとも気を付けたこと。

これについては、まめに手洗い、まめに手指消毒がほとんどであった。

ウ. さらに新型コロナウイルス感染症にかからないように、工夫していることを尋ねた。

表10 コロナウイルス感染症にかからないように工夫していること

よく寝て手を洗って、元気に笑顔で過ごす。
物に触れた後は、すぐに手洗いをしていた。外出を控えていた。
まめに手指消毒をすること。十分な睡眠をとること。
まめに手洗い、うがいをする。消毒を持ち歩く。
マスクをする。手洗い。うがい。
マスク、手洗い、うがい、手指消毒、4人以上での外食を避ける。手洗い、気持ち。
不要不急の外出をしない。手指消毒。
人の多いところやバイト先に行かない。手洗い、うがい。休日でも家で過ごす。
名古屋、居酒屋へ行かない。
手洗いやうがいをしっかりする。運動をよくする。
手洗い。うがい。水分補給。
手洗い。消毒など。
手洗い。うがい。手指消毒。人の多い所に行かない。行く場合は、あまり喋らない。
多人数で食事しない。
体調面では睡眠をしっかりとり、まめに手洗いを心がけた。

手洗い。うがい。人ごみのところにはいかない。
睡眠時間をなるべく多く確保できるように、実習記録は夜9時までにお知らせするように気を付けていました。
カラオケ、飲み屋に行かない。友だちと飲み物を共有しない。

(3) アンケート分析

a. 保育実習指導から実際の実習についての分析

(a) 学習意欲

実習を真剣にやりたいという意欲は、10項目すべてが1点から4点の中央値2.5点以下であるので、実習に対する意欲、心構えは十分整っていたと判断できる。

(b) 実習知識

質問番号51、実習後の礼状の書き方は別として、5項目は平均点が1.7点以下で、実習に関する知識は十分理解していたと学生は考えていることが分かった。

(c) 保育内容

保育内容に関する質問のうち、表3に示した順で、質問番号33、34、35、36以外は、質問文の末が「不安である。」となっているので、この4問については平均点をそのまま表し、残りの17問については、計算した平均点を5点より減じた値を平均点として示した。例を挙げると、最も平均点が高い項目は22番の「離乳食の作り方が不安である。」である。回答は自信がないほど1点に近づくわけであるが、肯定傾向があるほど得点が低くなるように他の項目も扱っていたので、元の平均点は1.31点であるが、5点よりその値を減じて、平均点を3.69点とした。

結果は、平均点が中央値の2.5点以下であった質問項目は、「絵本を上手に読むこと」が2.36点、「保育内容「人間関係」の理解」が2.43点、「保育内容「表現」の理解」が2.46点と、3項目だけであった。初めての本格的な実習ということもあるだろうが、残り18項目は自信がない中で実習をしたということである。質問番号21「ケンカが起きたとき、どのように対処するか不安である。」、同32「子どもに上手に素話ができるかどうか不安である。」は得点からすると、「やや不安」であり、実習へ出かける前に分かっていたら、実習指導担当者が学生を実習に出すのをとても不安に考えたことだろう。学生は、保育内容については不安を多く抱えたまま実習に臨んだわけであるが、実習記録、毎日の振り返り等を読む限りにおいては、不安ながらも持てる自分の知識・技術を振り絞っているいろいろな困難を克服していったようである。正にここが、つまり自分でやるまでは不安だったことが、実際に行ってみて、本当の体験、知恵として身に付けていくことが、実習させていただく大きな意義だと考える。

(d) 指導案

指導案については、一通り書く練習をしたが、十分に自信がある指導案の種類もないし、まったく自信がないという指導案の種類もないことが分かる。

(e) 発達

発達の理解は、教育心理学、発達心理学を一通り勉強しているが、それぞれの年齢の子どもについて、だいたい理解できているという状態である。

(f) もう少し勉強しておけばよかった教科、その内容

音楽、体育、造形、遊びの種類など、具体的な指導場面でもっと勉強しておけば良かったと痛切に感じている。この悔しさが、次の実習に備えるモチベーションになると信じている。

(g) その他実習にあたり困ったこと

子どもとの関係、指導案の書き方、指導の保育士との関係、ケンカの仲裁については、それぞれ子どもと、指導案の書く量と、指導の保育士と、ケンカをした者同士の距離感が問題となる。これらのことは、

実際に関わりながら身に付けていくことであり、実習を通してでしか学べない大切な内容である。外国にルーツがあり、日本語が上手く話せない子どもとの関わり、発達に応じた関わり方も実習を通して具体的に身に付けて欲しい。

(h) 実習以外で困ったこと

3点あがったが、今回は個々に対応すればよい内容だった。

b. 新型コロナウイルス感染症に関する分析

(a) 新型コロナウイルス感染症の流行にあたり、体調管理で気を付けたこと

表8から学生が体調管理を行う上で気を付けた項目の平均値をもとに分析を行った。平均値が低いものほどよく気を付けたものである。

よく気を付けたものとして「まめに手洗い」、「まめに手指消毒」、「咳エチケットの徹底」、「十分な睡眠を心がける」があった。次に「まめに換気」と「身体的距離の確保」が挙げられ、「食事内容に注意を払う」と「適度な運動を心がける」が今回質問した項目の中では平均点が高く、気を付けることが難しかったことがわかった。

平均値順に項目を並べると行動の性質の違いがみえる。学生がよく気を付けた「まめに手洗い」などの4項目は、どのような対策を行うのかが具体的に表されており、学生個人の意欲次第ですぐに取り組むことができる。また、市中において手指消毒薬設置や水道設備の普及を実感できる現状であり、学生が手を洗おう、消毒をしようと考えた際に、実行可能である社会的環境が整っていることも重要な点である。

「まめに換気」と「身体的距離の確保」は上記4項目に比べ、学生の意欲だけでは実行が難しい。学校や実習先では換気管理は教職員が行うことが多い。また、身体的距離の確保については、学生はおろか現場保育士においても、保育士などの現場でのストレス要因と思われるものとして「三つの密が避けられない¹⁾」ということが報告されている。

「食事内容に注意を払う」と「適度な運動を心がける」が他項目に比べ平均値が高くなったのは、取り組みへのハードルの高さがあると考えられる。これら2項目は他項目に比べ具体的な内容を提示しておらず、項目を読んだだけではどのような食事や運動が適切であるのか、それらに対する時間をどのように工面するのか、調理や運動への指向があるかといった、取り組むまでに障壁となる事柄が多い。

以上のことから項目によって気を付けやすさに多少のポイント差が見られたが、最も平均値が高い「適度な運動を心がける」でも2.21点であり、今回示された項目全般について調査対象の学生の多くが気を付けていたことが明らかになった。

(b) 新型コロナウイルス接触確認アプリ²⁾（以下、COCOA）を利用しているか

本項目ではCOCOAを知っているか、また、ダウンロード利用しているかについて訊ねた。「知らない」としたのは13%（8名）であり、「よく知っている」と「知っている」と肯定的に回答した者は71%（43名）であった。「知らない」も含めた全体に対するCOCOAのダウンロード・インストールをしている者は16名であり、ダウンロード率は26%であった。COCOAはダウンロードし初期設定を行うと、後はバックグラウンドで感染者との接触を確認してくれるアプリケーションである。日本の総人口に対するCOCOAダウンロード率は約22%^{3),4)}であり、社会的な数字を反映しつつも、調査対象の方がダウンロード率が高い印象を得た。

また、実習先での新型コロナウイルス感染症対策の一つである健康チェックカードについても聞いた。『保育所における感染症対策ガイドライン（2018年改訂版）』（厚生労働省、2018年3月）では保育所における感染症対策として体温や体調を保育士が把握することが明記されているが、『保育現場のための新型コロナウイルス感染症対応ガイドブック 第1版（2020.5.26）』（全国保育園保健師看護師連絡会学術委員会、2020年5月）や『学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル：「学

校の新しい生活様式」(2021. 4. 28 Ver. 6)』(文部科学省, 2021年4月)で新型コロナウイルス感染症対策においても子どもの体温や体調を把握することの重要性が述べられており、文部科学省のマニュアルでは「健康観察表」の活用が勧められている。健康チェックカード⁵⁾などの名称が用いられ、保育所ではそもそもお帳面などを活用し体温や体調の把握がこれまでも行われてきた。

事前指導などで特に健康チェックカードについて注目するよう指導は行っていないが、新型コロナウイルス感染症流行下で、保育現場で実際にどのような健康管理が行われているか、学生がどのようなことに気が付いたか訊ねた。

実際にお帳面での体温や体調の把握を含む健康チェックカードを見たと回答した者は9%(6名)であった。毎日体温測定やその確認が行われていること、健康チェックカードでは保育士がカードを見ただけで体温や体調変化がわかるように工夫されていることに関心が寄せられていた。

(c) 健康状況申告書の活用状況

健康状況申告書は調査対象が所属する大学で用いられている健康観察表で、日付、体温、熱感・悪寒、鼻汁・鼻閉、咽頭痛、咳、下痢、嘔吐、腹痛、その他症状などについて記載する。体温や特記事項以外は有無を選択するだけの形式で、時間をかけず記入することができる。実習の2週間前から記入を開始し、実習1週間後まで記載を続ける。異常があった場合に学生自身が適切に相談につなげられるかについて問うた。

誰に相談するかを複数回答可で訊ねたところ、多い方から学生自身の家族が46%(28名)、実習担当教員が41%(25名)、実習先の先生が33%(20名)という順であった。また、ゼミ担任に相談するとした者が21%(13名)、学内キャリア開発センター(CDC)職員が11%(7名)であった。健康状況申告書には実習を見合わせなどした際にはキャリア開発センターへ連絡する旨が記載され、同センターの電話番号が明記されている。

「実習先の先生」と答えた内の7名は他に相談する相手を選択しておらず、もし、これらの学生に異常があった場合、実習先のみで異常の報告がなされてしまう可能性があった。最終的に実習受け入れ先へも迅速な報告が必要であることは間違いないが、大学も情報を共有することが実習を行っていく上で重要となる。

新型コロナウイルス感染症流行がいつまで続くか見通しが立っていないが、今後の事前指導や学内周知の中で、これまで以上に異常発生時の相談連絡先がどこであるか、健康状況申告書の活用と意義について再三伝えていく必要がある。あわせて、実習担当教員やゼミ担任に相談するとした学生も一定数いたことから、学生にとって身近な教員が健康異常について情報を得た際に学内で一元的に管理できること、学内専門機関と協力を得て学生に医学的な見解を踏まえ適切な指示ができること、実習先施設に迅速に連絡し実習継続や中止について検討できることが実習受け入れ先に安心して学生を受け入れてもらうために重要となる。

健康状況申告書と絡めて学生が最も注意していたことをきいたところ、最も気を付けたこととして「まめに手洗い」が55%(32名)、「まめに手指消毒」が27%(16名)であったが、十分な睡眠時間を心がける、体温を毎日測る、倦怠感がないか意識をするなどの記載もあり、健康状況申告書のチェック内容を踏まえて気を付けている学生もいた。

健康状況申告書での自己管理を踏まえた上で、新型コロナウイルス感染症にかからないための工夫について、これまで述べたように既に周知されている対策を励行している様子がみられたが、工夫という点で、手洗いをを行うにしても「外出から戻った時、食事をする前には手洗いうがいをするようにしている」と、手洗いのタイミングも意識している姿がみられた。また、「元気に笑顔で過ごす」という記述もあり、精神的な負担に対する工夫もみられた。

実習という普段の学校生活と異なる日々を過ごす中で、「睡眠時間を多く確保できるように実習記録

は21時までに終わらせるように気を付けた。」という学生もいた。「カラオケ、飲み屋に行かない。友達と飲み物を共有しない。」と書いた者もいた。社会的に見れば当然であり、記述するに値しないという指摘もあるかもしれないが、これまで「学生」として当たり前のように行えたことを、意識的に学生が自粛している姿を垣間見ることができた。

3. 考察

今回の保育実習の特徴は、新型コロナウイルス感染症が流行している中で行われたことである。幸いにして、実習保育園や認定こども園の園長先生のご理解のおかげで、62名の学生がほぼ例年通りに実習を終えることができた。この点は本当に感謝の念に尽きない。

表8、表10を見ると、学生は自分の健康管理にかなり気を使い実習に臨んでいたことが理解できる。大学側は、実習巡回等で教員、実習園との交渉でCDC（教職支援）職員の助言、尽力をいただいた。本当に関係者の心が一つになった実習だったと自負できる。

実は、2021（令和3）年も愛知県に新型コロナウイルス感染症の流行で緊急事態宣言が発令された。本学の活動指針レベルは宣言を受け、5月31日～6月27日までレベル5となった。学生にアンケートを実施した翌々週から、教育学部のかんりの授業がオンライン授業となった。

アンケート結果だが、分析した通り前半の「保育実習指導から実際の実習について」は、ほぼ例年通りの結果であった。何度も同じことを繰り返すが、この例年通りの実習ができたことに、例年以上に感謝し、実習指導者として満足している。そして、今年度も例年のように普通に実習ができることを祈っている。それには、後半のアンケート、その分析も欠かせないと思う。

保育者養成校に限らず多くの学校で感染症対策の励行や情報周知に取り組んでいるが、単位取得や卒業要件に実習が必要な学部では、学外施設に学生が赴く必要性があり、学内での流行や学生に罹患させないことが課題となっている。

若者や学生が新型コロナウイルス感染症に対して危機意識が低い⁶⁾という報道も散見され、医学部においてもクラスターが発生した⁷⁾事例もある。受け入れる施設側としても、受け入れを依頼する学校側としても、実習に臨む学生がどのような意識でいるのか無関心ではない。

新型コロナウイルス感染症拡大防止における大学生の行動変容についての調査では、調査対象において2020年1月から4月にかけて危機意識の著しい向上がみられ、発症時の対応について説明できる割合も2020年4月時点では70%と増加している⁸⁾ことがわかった。2020年1月は国内報道でもポツポツと新型コロナウイルス感染症の話題が見られるといった程度であったが、同年3月のWHOパンデミック宣言を経て、続く4月には本邦において緊急事態宣言がとられた時期である。調査対象の学生においても、それぞれ考え感染症対策に注意を払っていることがわかった。分析でも述べたが、学生は具体的で、個人で取り組みやすい対策についてより気を付けており、これらは新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」の具体的実践例⁹⁾として様々な媒体で繰り返し周知され、学生自身も積極的に気を付けることができた。

若者や学生の危機意識が低いということに対して、興味深い結果が出たのがCOCOAのダウンロード率である。調査対象においては事前指導などにおいてCOCOAを意識的にあっせんしている事実はなく、学生に身近なスマートフォンに実装できるアプリケーションであり、学校以外でも利用できるツールであり、学生の本感染症への危機意識の目安になると考え設問を立てた。

本調査実施直後の2021年5月28日現在、COCOAは2,796万件ダウンロードされている。なお、第2波指摘後2020年8月31日時点では1,567万件、第3波指摘後の2020年11月30日時点では2,084万件¹⁰⁾であった。総務省統計局2021年1月1日現在の人口推計概算値日本総人口は1億2,557万人であ

ることを元に計算すると約22%が利用していると試算できる。携帯電話契約数から一人で複数台の端末を契約している者もいるが、アプリケーションの性質や、2020年日本における年間ダウンロード数最多¹¹⁾のスマートフォン用アプリケーションである事実も踏まえれば、この22%という数字を、積極的に新型コロナウイルス感染症対策を意識している国民の割合と捉えることも可能である。

調査対象においては、COCOAを7割(43名)が肯定的に認知しており、インストール・ダウンロードしている者が26%(16名)いることがわかった。学生は年齢が高い者に比べてスマートフォンの操作に慣れており、アプリケーションをダウンロードすることに抵抗が少ないなどの要因も考えられるが、社会全体のダウンロード率22%と比べれば、「学生なので新型コロナウイルス感染症への危機意識が希薄であるとは言えない」と自信を持って述べてよいと考える。

新型コロナウイルス感染症については保育現場でも課題があり、実習生だけでなく受け入れ側も課題を抱え¹²⁾業務を行っている。これまでの基本的な感染症対策はもちろんのこと、予防接種も徐々に進んでおり、教職員に対する優先接種についても検討¹³⁾、実施¹⁴⁾されている。学生を安心して受け入れるという意味では、実習生への予防接種も有効となる。大学接種の進捗に期待したい。

いずれにせよ、予防接種の有無に関わらず、「新しい生活様式」の励行が勧められている。今回わかった新型コロナウイルス感染症に対して学生が気を付けていたことが、予防接種の有無に関わらず重要である。こういったことから、今後の学生指導においても、学生が感染症流行下でも実習に際して配慮ができるように指導や情報周知を行っていくことが重要である。

引用文献

- 1) 全国保育協議会・全国保育士会. 新型コロナウイルス感染症への対応等に関する調査. http://www.zenhokyo.gr.jp/top_kiji/covenq_r_0605.pdf (情報取得 2020/10/31)
- 2) 厚生労働省. 新型コロナウイルス接触確認アプリ (COCOA) H P. https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/cocoa_00138.html (情報取得 2021/6/6)
- 3) 同上.
- 4) 総務省統計局. 令和3年1月20日. 人口推計:2021年(令和3年)1月報. <https://www.stat.go.jp/data/jinsui/pdf/202101.pdf> (情報取得 2021/6/6)
- 5) 岐阜県H P. 健康チェックカード(令和3年度用). <https://www.pref.gifu.lg.jp/site/edu/110638.html> (情報取得 2021/6/6)
- 6) 朝日新聞デジタル. 2020年3月31日. 若者よ、想像して:その宴会・行動の先にある感染リスク. <https://www.asahi.com/articles/ASN3003PJN3ZULBJ009.html> (情報取得 2020/5/10)
- 7) 地域の皆さまへのお詫び新型コロナウイルスの集団感染の発生に関して. 2020年8月7日. https://www.mie-u.ac.jp/topics/university/item/mieupresidentmessage_20200807.pdf (情報取得 2021/6/6)
- 8) DoOurBitプロジェクト・西原麻里子・太田悠希子・田口美奈・高橋里奈・国分杏奈・柳ジェイン・兵頭壮亮・藤橋明日香・監修:杉下智彦(2020)強制か自粛か? COVID-19における日本人大学生の意識調査結果. *Journal of International Health*, 35 (2). 93-95
- 9) 厚生労働省H P. 新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」の実践例を公表しました. https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html (情報取得 2021/4/1)
- 10) 前掲(2).
- 11) APP ANNIE. モバイル市場年間2021, 50

<https://www.appannie.com/jp/go/state-of-mobile-2021/>（情報取得 2021/6/7）

- 12) 横井良憲・鈴木裕子（2021）新型コロナウイルス感染症 COVID-19 の中での保育施設の課題. 愛知教育大学教職キャリアセンター紀要, 6. 19-26
- 13) 産経新聞. 教職員のワクチン優先接種を提案、文科相. 2021/5/14.
<https://www.sankei.com/life/news/210514/lif2105140015-n1.html>（情報取得 2021/6/6）
- 14) NHK NEWS. 福岡市、保育園職員を対象、コロナワクチン優先接種始まる.
2021年6月7日.
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210607/k10013072811000.html>（情報取得 2021/6/10）